

二第35号二

平成28年(2016年)3月発行

富士宮国際姉妹都市協会
富士宮市弓沢町150番地
富士宮市市民生活課内 ☎ 0544(22)1486



友 情



提携40周年記念サンタモニカ市親善訪問団が須藤富士宮市長を表敬訪問 (平成27年8月12日)

姉妹都市提携四十周年記念事業を施行して

会長 赤池俊洋



にしみて理解できました。

富士宮市の将来を考え、様々な困難を乗り越えて、国際親善、友好、そして、両市の若者を国際人として育成しよう、邁進して来た皆様のおかげで、四十周年を迎えることが出来たと思います。

また、今回開催された四十周年記念事業では四十年の節目で初めて、協会旗、バッジなどの協会グッズも作りました。それらの柱となる協会のロゴマークは、全国から多くの応募、デザイン案をいただき、厳正な審査で決定致しました。そして、これから、五十年、百年と協会が発展して存続して行くことの願いを込めています。

平成二十八年度の当協会の事業も高校生の交換学生事業の実施、富士宮市民によるサンタモニカへの親善訪問団の派遣などを計画しています。

市民間での交流により、平和、日米両国間の愛と理解など、四十年間で積み上げた歴史を、さらに将来に向け発展させるべく、協会役員一同、努力して、行動して行きたいと思っています。

これからも、協会へのご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

一九七五年七月二十一日、サンタモニカ市において、富士宮市・サンタモニカ市との姉妹都市提携の調印式が行われました。以来、両市の間で高校生の交換学生事業、市民による親善訪問団の相互交流事業を始めとして、サンタモニカ市の中高生の来宮、記念の年にはサンタモニカの少女サッカーチームと保護者の皆様や協会役員の方が来宮されました。また、富士宮市からも高校生の野球選手団、サッカー選手団のサンタモニカへの派遣・交流試合など、スポーツ交流も積極的に行われてきました。

本年度、姉妹提携四十周年記念事業を役員とともに開催させていただいた事は、私自身にとって、大きな人生の経験となりました。そして、この四十年の歴史を地道に大切に積み上げ、育てあげてきた歴代の諸先輩、役員、協力者の皆様方の大きな功績や努力が身

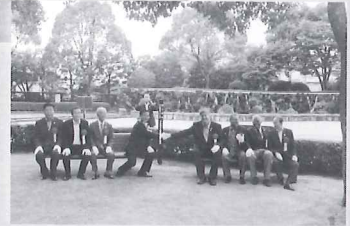
40周年記念事業を振り返って

■市長表敬訪問



須藤市長とマケオン市長

■記念ベンチ除幕式



記念ベンチを2基寄贈
(外神東公園で)

■記念レセプション



富士宮囃子を体験



多くの方が列席しました



鏡開きで40周年をお祝い

■市内観光



白糸の滝を見学



協会から記念品の贈呈



須藤市長から書のプレゼント

姉妹都市提携四十周年を祝して

サンタモニカ元市長 ナット・トラヴィス

二〇一五年八月に行われた、両市の姉妹都市提携四十周年を記念するため、サンタモニカ姉妹都市協会が富士宮を訪れたことは、とても印象深い思い出となりました。私は、尊敬する当時の富士宮市長植松義忠氏に、特別名誉市民の称号を頂いたこともあり、富士宮市民とは強い絆があります。富士宮市には十回以上訪れており、来るたびに両市がより強く結びついていくのを感じます。

初めて訪れたのは、一九七四年、創価学会インターナショナルの使節訪問団とともに来日しました。そして、彼らと富士宮とのつながりによって、真剣に両市が公式な姉妹都市として発展していくこととなりました。提携を実現するため、私たちは何度も両市を行き来し、ついには一九七五年七月、サンタモニカ市庁舎のロビーにて高官やゲストが見守る中、サンタモニカ市長(当時)である私と、尊敬する富士宮市長(当時)植松義忠氏にて、祝祭のような雰囲気のもと、調印式を行いました。

今回の八月の来宮は、サンタモニカ市長ケビン・マケオン氏、サンタモニカ姉妹都市協会会長ジェフ・ジャロウ氏、ピクター・コムロス監督率いるAYSOSサッカーチームの五十四名の訪問団で、過去四十年訪れた中でも、一番満喫した滞在のひとつとなりました。市役所では、須藤秀忠富士宮市長と、赤池俊洋会長をはじめとする富士宮国際姉妹都市協会(FISCA)の皆様が、私たちを、温かく迎えてくださり、記念品交換などを行いました。

四十周年記念事業の実施にあたり、富士宮国際姉妹都市協会の役員や事務局と定期的な連絡をとり、主要なことから細かいことまで、全てのリスクエストに添えてくれました。明確なコミュニケーションは、長く交流するため、そして、四十年以上もの提携を続けていくために必要であり、私は率直に富士宮国際姉妹都市協会に感謝の意を表します。

今回、訪問団の一員として、私の娘トニー・トラヴィスと孫二人トリスとタナー

姉妹都市提携 40 周年記念事業被表彰者

【感謝賞】

公益財団法人 みやしん地域振興協力基金

【功 勞 賞】

ナット・トラヴィス
赤 池 次 郎
望 月 伸 浩
九 川 幹

【ロゴマーク作成者】 佐 藤 健 二 (大阪市)

●姉妹都市提携 40 周年記念事業スケジュール●

日 程	行 事 内 容
8月11日 (火)	サンタモニカ市訪問団来宮
8月12日 (水)	市長表敬訪問
	記念ベンチ除幕式
	記念レセプション
8月13日 (木)	市内観光(富士山散策、白糸の滝見学)
8月14日 (金)	富士山カップ開会式、予選リーグ
	サッカー協会レセプション
8月15日 (土)	富士山カップ予選リーグ、決勝トーナメント
8月16日 (日)	富士山カップ準決勝、3位決定戦、閉会式
8月17日 (月)	サンタモニカ市訪問団離宮

姉妹都市提携

■富士山カップ



開 会 式



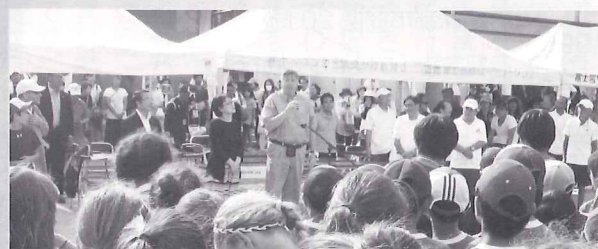
ナット元市長を囲んで



みんなで輪になって



サインの交換



マケオン市長も開会式に出席

●富士宮国際姉妹都市協会(FISCA)● ロゴマーク決定

提携40周年を記念して募集したロゴマークに、市内外から多数のご応募をいただきました。厳正な審査の結果、最優秀賞は佐藤健二さん(大阪市)の作品に決定し、協会のロゴマークに採用されました。そのほか優秀賞に清水豊さん(習志野市)、深澤秀幸さん(富士市)の作品が選ばれました。

●マークの説明(作者より)●

富士宮市から見える富士山とサンタモニカ市のヤシの並木、国際交流をイメージする地球をデフォルメして描きました。



を同伴したことをとてもうれしく思います。私たちは、第二の故郷であり家のように快適な老舗旅館たちばなで、旅館の主人石田寛二氏と女将のみえ子さんから、素晴らしいおもてなしを受けました。

少女サッカーチームのAYSOサッカーチームは、市役所とサッカー場での歓迎を喜んでいました。富士山カップに出場し、サンタモニカに勝利を持ち帰り、富士宮で新しい友達も作る事ができました。試合ではたくさん写真を撮り、富士山や、白糸の滝、浅間大社、美しい外神東公園を訪れ、市内観光を楽しみました。公園内にあるサンタモニカピアサイン

のレブリカや、ウィルシヤウエーブなどは、ひとつの市が、友好を記念して造る物としては、とても高価なものであると思います。今回その公園で、須藤市長とマケオン市長が、両市の姉妹都市提携四十周年を記念してベンチ二脚の除幕を行いました。

今回の訪問は実に素晴らしい、私たちの心は、親善と友好で満たされました。二〇一六年夏には、サンタモニカ市と富士宮市の交換学生事業が実施されます。また、サンタモニカ姉妹都市協会は、二〇一六年秋に、富士宮市からの親善訪問団をお迎えし、再会できることを楽しみにしております。

姉妹都市提携 40 年のあゆみ

年	主 な 出 来 事
1974	姉妹都市提携仮調印
1975	第 1 回訪問団を派遣 サンタモニカ市で姉妹都市提携調印式
1978	サンタモニカから初の学生受け入れ
1979	会報「友情」創刊
1980	富士宮市から初めて学生 3 名を派遣
1983	年少児による「絵」の交換事業始まる
1985	姉妹都市提携 10 周年 友好の像設置
1987	サンタモニカ市庁舎前 「Fujinomiya Douri」(ふじのみや通り) 除幕式
1990	姉妹都市提携 15 周年 記念植樹
1991	国際姉妹都市青少年絵画展覧会始まる 重須孝行太鼓アメリカ公演
1993	外神東公園「サンタモニカの小径」完成
1995	姉妹都市提携 20 周年 記念誌「かけはし」発行
1998	市内高校選抜サッカー選手団がサンタモニカ市 姉妹都市サッカー大会に参加
2000	姉妹都市提携 25 周年 富士山カップ(サッ カー大会)に少女チーム招待
2005	姉妹都市提携 30 周年 記念展開催
2010	姉妹都市提携 35 周年 市民ホールにサンタモニカコーナー設置
2015	姉妹都市提携 40 周年 外神東公園に記念ベンチ設置



姉妹都市調印式



Fujinomiya Douri



外神東公園



記念ベンチ除幕式

富士宮国際姉妹都市協会の 主な事業

- 交換学生事業 (高校生対象)
- 親善訪問団の派遣
- サンタモニカ市修学旅行生受け入れ
その他、姉妹都市提携記念事業、
スポーツ交流事業、文化交流事業を
行っています。



交換学生事業の様子



40 周年記念レセプション



姉妹都市提携 40 周年に寄せて



富士宮市長 須藤 秀忠



2014年に、親善訪問団としてサンタモニカ市を訪問し、サンタモニカ市の皆様の温かい歓迎を受け、感激の極みでした。太平洋を越えた両市の結びつきの強さを改めて実感しました。

今年は、多くのサンタモニカ市民をお迎えし、学生の交歓交流をはじめ、サッカー大会などを通じて、両市民の結びつきがより深まることを期待します。サンタモニカ市と富士宮市の絆は永遠です。

サンタモニカ市長 ケビン・マケオン



サンタモニカ市民も、芸術、スポーツ、教育などで培われた両市の絆を大切にしています。また、交換学生事業で当市に派遣された学生が、富士宮市の素晴らしさを伝えてくれます。

皆様の弛まぬご尽力を称え、両市のパートナーシップがこれからも続くよう祈念します。

第三十回記念 富士山カップ 全国少年・少女サッカー大会

富士山カップサッカー大会に出場して
ソフィア・フオーク(選手) レベッカ・ハガティ(母)



今年の夏、私たちのサッカーチームは富士山カップサッカー大会で試合をするために、日本、そして富士宮市へ行きました。私たちの旅は、富士宮の美しさと、サッカーの試合での経験、そしてホストファミリーの丁寧さで、とても素晴らしく、また、驚きの連続でした。

日本について驚いたことのひとつは、アート(芸術物)が複雑で美しいことでした。

富士宮市では、白糸の滝に行きました。滝はとても荘厳で、滝つぼから見えた景色は素晴らしいです。人生であんなに滝の近くに行ったことは、はじめてでした。とても印象に残る体験で忘れられません。

また、浅間大社にも行きました。そこには、川が流れていて、幸運を祈って水に入りました。川の中で拾った石のかげからはとても綺麗で、旅の思い出として大切に持っています。富士宮の美しさは、私たちの文化体験において、感激以上のものでした。

その他に富士宮について感激したのは、サッカーの試合での体験でした。富士山カップでは、親善試合を含めて六チーム以上と対戦し、トーナメントでは、三位に入賞しました。試合を通じて、違うサッカースタイルを持つ他チームと戦うのは、とてもおもしろかったです。似ているスタイルのチームがあることにも驚きました。サッカーをよ

く知っているチームの選手たちと試合ができて楽しかったし、対戦した全てのチームが優れていて、素敵な経験になりました。サッカーでの体験で、特に印象に残っていることは、選手たちでした。とてもやさしくて、毎試合お辞儀をしていました。家へ帰っても思い出せるように、選手たちにボールにサインをしてもいいました。選手たちをよく知って、日本の子供たちがどれほど礼儀正しいか、とても分かりました。そして、新しく友達になった全員が素敵で、サッカーでの経験は富士宮市訪問ツアーの素晴らしい一ページになりました。

サッカーと市の美しさと同時に、全ての日本人の礼儀正しさに、びっくりしました。どこかの場所に入ったりした時、初めて会う時、道を歩いている時でさえ、私たちに挨拶をしてくれました。皆のやさしさに日本文化でお辞儀がどれだけ大切か分かりました。さらに、もっと日本文化を知るために、私たちチームの選手は一晚ホストファミリーの家に泊まりました。私たちのホストファミリーは、信じられないほどいい人たちで、庭でバーベキューをして、私たちを家族やお友達に



サンタモニカ・セイントスの入場行進

紹介してくれました。なんと、ホストファミリーがお坊さんだったので、お寺にも行くことができました。私たち

のホストファミリーはサッカーの試合にもいっぱい来てくれて、私の家族にいろいろな美しい贈り物をくれました。彼らの文化や宗教を知ることが、スポーツの交流だけでなく、文化交流も、もたらしてくれました。

富士宮市での皆さんのやさしさは、旅の一番重要なことのひとつでした。

日本と富士宮市は、地球上で最も魅力的な場所のひとつです。私は、富士宮市の美しさ、サッカーの体験、そして日本人の礼儀正しさを知りました。これは、一生に一度の文化的経験でした。もし日本と富士宮市を訪れるなら、誰もが感激することでしょう。

第30回記念富士山カップ 全国少年・少女サッカー大会成績

○予選リーグ

- サンタモニカ・セイントス 2 - 0 原FC なでしこ横浜
- サンタモニカ・セイントス 6 - 0 袋井西FC
- サンタモニカ・セイントス 2 - 2 富士レディース
- サンタモニカ・セイントス 0 - 2 クワトロガールズ (御殿場市)

○決勝トーナメント

(順位トーナメント戦)

サンタモニカ・セイントス 1 - 1 島田プリンセス (PK: 4 - 3)

(準決勝)

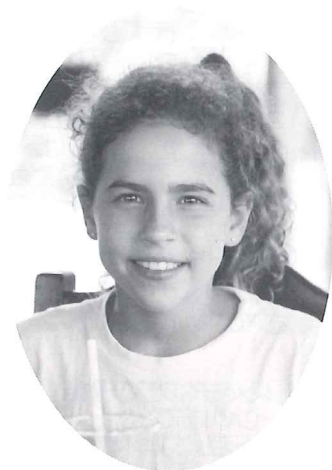
サンタモニカ・セイントス 0 - 0 クワトロガールズ (PK: 2 - 3)

(3位決定戦)

サンタモニカ・セイントス 1 - 0 名賀名張アルテミス (三重県名張市)

富士宮での体験

マヤ・ジービ (選手)



が出迎えてくれて、折り紙やひらがなのボードをプレゼントしてくれました。この素敵な家族との出会いは、私の文化交流の日本ツアーを忘れられないものにした大きな出来事

のひとつでした。

私の旅に加えられる、その他の主なことは、サッカーの試合をしたことです。富士山カップに出場しているすべてのサッカーチームに会えたことはとても光栄でした。私たちはお互いサッカーボールやジャージにサインをしあい、他のチームのたくさん選手たちと、お友達になりました。トーナメントでは三位に入賞し、有終の美を飾ることができました。また、ソフィア・フォークとともに優秀選手にも選ばれました。日本は素晴らしい国で、日本と富士宮での体験は、私の心に残りました。

私は富士宮で、ホストファミリーに会ったり、富士山カップサッカー大会のトーナメントで試合をしたり、たくさん素晴らしい経験をしました。これらの経験は、私の文化交流の旅を、ほかと比べ物にならないものになりました。初めてホストファミリーに会ったのは、姉妹都市提携四十周年記念レセプションの会場でした。翌日、ホームステイのスタートにあたり、待合室に入ってきたホストファミリーの大きくてキラキラした笑顔をはっきりと覚えていきます。私の名前が呼ばれて、顔合わせしてから、私の笑顔もホストファミリーと同じくらい大きくて輝いたものになりました。ホストファミリーの家に着いたとき、家族



試合の様子



対戦チームをリスペクト



参加チームが集まって記念撮影



試合の合間に交流



3位入賞

はじめてのホストファミリー体験

北村 章子

ホームステイの受け入れは、不安でいっぱいでした。うちの子(小五女子・小二男子)は二人とも、英会話もサッカーも習っているから、すごくいい機会ではあるなあ...でも、富士山カップには娘自身も出場するので、大会中は本当にハード...それに何より私が、英語がペラペラではない。ですが、勇気を出して受け入れて本当によかったです。

アナベルの我が家での滞在は、本当に短く、食事は夕食・朝食の二回のみでした。夕食には、前日の四十周年記念式典で仲良くなった母親のステイシーも呼び、手巻き寿司を振る舞いました。おさしみも納豆も食べてくれましたが、馬刺しとコンニャクには、渋い顔でした。娘が茶道を習っているの、抹茶をたてて出



書道体験

しましたが、これも残念な結果でした。他には、書道と一緒にし、「愛七鈴」「透汀海」と私たちが考えた、当て字を色紙に書いて渡すと、とても喜んでくれました。夜には、花火も楽しみました。ステイシーをホテルに送った後、お菓子のグミを作りました。粉をねったり、液を水に入れたり、三人で大盛り上がり！おとなしいアナベルも楽しそうでした。大会中も、シャイな娘は、相変わらず自分からは話すことはないのですが、自分のチームメイトとサンタモニカの子の間に入って通訳をして

いました。息子の方は、家族で来ていた男の子といつの間にか仲良くなっていました。わが子達は、それぞれに自分の居場所を見つけ、サンタモニカの子との交流を満喫していました。

アメリカと日本の間に、文化や環境の違いはあってあたり前。個人においては、性格や好みも人それぞれ。それでも、「喜んでくれるかな？」のおもてなしの気持ちで伝わった、ホームステイ受け入れだったと思います。もっとアナベルやサンタモニカの方と一緒に過ごしたかったですし、ぜひサンタモニカにも行ってみたいです。



試合会場にて

国境を越えて ～通訳ボランティアに就任して～

増田 哲也

今回、姉妹都市提携四十周年ということで、富士宮市は、サンタモニカ市からの訪問団を招待しました。富士宮市における七日間の滞在中に、私はあらゆる場面での通訳ボランティアとして従事させていただきました。ポランティア初日、それまで自分が抱いていた心配や不安は払拭され、自由でエネルギーギッシュな子どもたちや、気軽に話しかけてくれた大人たちが、自分に勇気を与えてくれました。また、ひとたびサッカーの試合が始まれば、子供たちは目の色を変え、大人も子供も関係なく、チーム一丸となって戦うサンタモニカ・セインツの姿にも感動しました。

最も印象に残った場面は、日本とアメリカのサッカー選手たちの触れ合いです。初めは、少し恥ずかしがっていた日本の子どもたちが少しずつ、アメリカの子どもたちと近づき、「サイン プリーズ！」と言って、サッカーボールにサインを求め始めました。気づいてみれば、セインツのテントの周りは大勢の人に囲まれ、一緒に写真を撮っ

たり、折り紙を渡したり、英語の歌を使った遊びを一緒に楽しむ子どもたちの姿がありました。この光景を見て、サッカーには国境が無いというのを感じました。富士宮市とサンタモニカ市の将来を担う子供たちが交流し、友情を育む様子を見て、両市の絆がさらに深まることのできたように感じました。

サンタモニカの皆様にも少しでも良い思い出を作ってほしいと思って参加した通訳ボランティアは、結果的に私にとって、忘れられない思い出となりました。どこまで役に立つことができたかは分かりませんが、関係者の皆様、一緒に従事した通訳ボランティアの皆様、温かく接してくれたサンタモニカの皆様には本当に感謝しています。



通訳の様子

交換学生事業を通して得たもの

吉原高等学校一年 藤原泰樹

今回の交換学生事業でたくさんのお物を得ることができました。

一つ目には、自分の新たな課題を見つける事ができました。それは、英単語を正しい発音で覚えるということですが、外国人英語教師がやっている英会話教室に通っているのですが、発音には自信がありませんでしたが、通じない事が多かったです。僕は、カナダとオー



ホストファミリーと



山車を見学



ストラリアに短期留学経験がありました。アメリカ国内でも発音が違うそうです。アメリカ人同士でも、お互いの英語が聞き取れないこともあるそうです。特にカリフォルニア

アなど。もっと、キッチリと発音の勉強をしておけば良かったなと思ったり、もっと勉強をし、今のレベルより数倍上のレベルを目指す必要があるなと強く思いました。また、知らない単語や熟語などがとても多く、もっと勉強しなければなと思いました。

これから、もっと単語や発音、熟語などの勉強を頑張つて、自分の最終的な目標である二言語話者(バイリンガル)になるという最終目標に一步步近づいていけるように努力したいと思っています。

二つ目には、日本の素晴らしさを再確認する良い機会になりました。

アメリカでは、差別とも受け取れる言葉を数回聞くこと

がありました。そういう環境で日本の安全性がどれだけ高いものかが分かりました。

また、日本のおもてなしというものが当たり前でなく、日本独自の文化だという事が分かりました。それは、日本の良き文化だと思えます。自分の親が飲食業のお店を営んでおり、そのため、日本のレストランならこうしないとと思うケースやサービスも、日本スタイルにした方がより良くなるのという事も思いました。

あと、日本も見習うべき点も見つける事ができました。それは、フレンドリー(友好的)なところ。日本人の多くは、固くあまり友好的でないですが、僕自身を含め日本人が見習うべきだと思いました。

三つ目は、家族のありがたみを再確認することができました。そして、最後に一生涯の最高の親友をアメリカという外国に作る事ができました。四週間もの間一緒に生活を共にし、心を通わせることができました。定期的に連絡を取り合い今後も交流を深めていき、またお互いの両国を訪れたいと思います。

僕は、二〇一六年の一月からフィジー国の高校に二年間留学に行きます。そこでは、今回の交換学生事業で生まれた課題などを解決するため、事前にしっかりと準備し、今回の経験を生かして充実した二年間となるように頑張りたいと思います。



記念レセプションに参加して



交換学生事業で学んだこと

富岳館高等学校三年 市川 真理

「サンタモニカに行くー」

そう決心がついたのは高校三年生の春でした。小さい時から英語が好きで、「英語を使った仕事に就きたい」とずっと思っていました。

去年、英語科の先生に姉妹都市の交流事業を薦められました。自分の英語力に自信がなく、応募しませんでした。三年生の春、まだ進路も決まらず焦りを感じていたとき、再び担任の先生から交流事業のお知らせをもらいました。「これが、最後のチャンス。」

「自分がどれだけできるか、やってみよう。」と、ずっと憧れだったアメリカに行きたい。といった気持ちに不安に勝ち、決心を固めました。

多く、むしろお肉が少なかつたように感じました。ホーム

スティッドハウエルサー家の夫婦はとても仲が良く、朝ご飯をホストファミリーが作っているのをよく見ました。「これが好き！」という毎日同じ飲み物を出してくれたのです

が、私の家では食事のときにジュースを飲む習慣がなく、戸惑いました。好きなものをたくさん食べてほしい、という気持ちが嬉しかったです。

アメリカ人の優しさには本当に感動しました。

また、アメリカではどんな立場、どんな関係の人ともフレンドリーに会話をします。失敗したり、うまくいかなかったときには「大丈夫、気にしないでいいよ。」「平気だよ。」と、少しでも成功すると「すごい」「よくやった」といつでもポジティブな言葉をかけてくれて、相手の長所を褒めることが習慣になっているのだと気付きました。

ホストファミリーは私を本物の家族のように接してくれて、寂しく感じることはありませんでした。アマンドがク

ラブ活動でいなくなるときはホストファミリーとホストファミリーとビーチを散歩に行きました。最初の頃は、全くと言っていいほど話していることの意味が分からず、悔しい思いをしていました。それから、どこに行くときも電子辞書を持ち歩き、気になった単語や文章を訳してみたり、会話の中でわからなかった単語のスペルを教えてもらい調べてみたりするようになりました。

こういったことを繰り返していくうちに段々と分かるようになります。会話の中でジョークを言い合えることが楽しくなりました。

八月六日、アマンドとともに日本に帰国しました。サンタモニカと違って日本の夏は蒸し暑く、しばらく気候になれるのに大変でした。

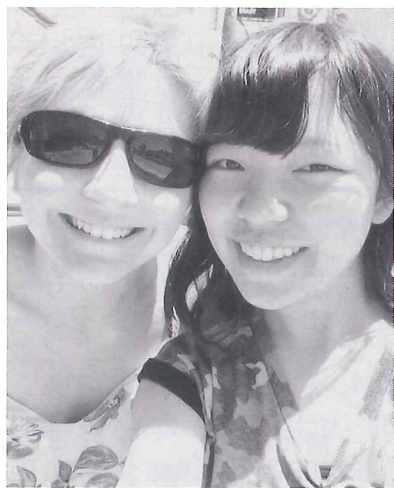
家族は、私がこの事業に参加したいと言ったとき大喜びで、ずっとアマンドに会えるのを楽しみにしていました。しかし、私の家族は私以外誰も英語を話せなかつたので、とても不安を感じていたので

したが、翻訳機能やジェスチャーで積極的にアマンドとコミュニケーションを取っていました。

日本が大好きなアマンドに、何か日本らしいことを体験させてあげたい、と考え浴衣を着てお祭りに行くことにしました。着崩れや、歩きにくいことに困っていましたが、とても喜んでくれました。買い物に行くたびに、「日本の物は全てがリーズナブルだし、すばらしい！」と、アメ



アメリカを満喫



アマンドと



カフェにて

リカとの物価の違いや物の質の良さに感動していました。今回この事業に参加したことで、日本とアメリカの文化や習慣の違いをお互いに理解し、自分の目標も決まりました。私のように、英語が話せないことで悔しい思いをする人が少しでも減るように、そして世界で活躍したい人の手助けをしたいです。

はっきりの言わなくてもいい日本と違い、YESかNOかで答えなければいけないアメリカでは大変でしたが、たとえ意見が違っても自分の考えを相手に伝えることの大切さを知ることができました。

アマンドと別れるとき、また会おうと約束をしました。次に会う時には、自信をもって英語を話せる私でアマンドに会いに行きます。

多謝、そして繋げる

富士見高等学校一年 小川 果南



お気に入りの浴衣を着て



ビーチを訪れて



オリビアの家の玄関で

説明を聞きながら見学することができました。そこでは、選択授業が多くとても驚きました。日本語、ヘブライ語、中国語、フランス語、ドイツ語、イタリア語…と多くの言語のクラスもあり、趣味が多いだけではなく、グローバルであり、いろいろな分野に挑戦し、視野を広げていると思います。それから、現地には、日本の専門店のような場所がいくつかあり、主に、アニ

私は、幼い頃から姉と共に母から英語の教育を受けていて、元々英語や、外国の文化には興味がありました。そして、私の姉も四年前にこのプログラムに参加させて頂いたことがあり、ホームステイをすることが、いつの間にか自分の夢になっていました。アメリカでの様子を少し記させていただきます。

ロサンゼルス空港に着くと、三人の交換留学生と彼らの家族、またサンタモニカ姉妹都市協会の方々温かく歓迎して下さいました。そして、そこから車でホストファミリーと家へ向かっている途中で、いくつかの家にはアメリカの国旗が立てられていました。そのことを尋ねると、アメリカ人の多くが、自分がアメリカ市民であることを誇りに思っており、飾る、とのことでした。このことはたったの二週間でしたが、滞在中にとても感じる事ができました。現地の人々は、親切で友好

的に、見知らぬ人でも話しかけてくれました。ショッピングをしていると、店員さんが「日本から来た交換留学生なんだ。私、日本のお寿司好きですよ!」と日本についてもお話してくれました。

また、モノの大きさにも驚かされました。特に服や食べ物、飲み物が違いました。そして、サンタモニカの高校生が多く通っているサンタモニカ高校へも行きました。夏休み中だったので、授業を実際に見ることはできませんでした。夏休み中だったので、授業を実際に見ることはできませんでした。夏休み中だったので、授業を実際に見ることはできませんでした。

「絶対また会おうね。次は日本語のクラスを選択するから、日本語で会話できるようにするからね。それまでずっとコンタクトをとっていきましょう。果南は私の本当の妹だよ。」と、最後の夜に、彼女は涙を流しながら私にそう言ってくれました。

メのグッズ、お寿司、富士山・サムライをモチーフにしたグッズが多く置いてあるお店でした。オリビアも、「日本の食べ物、歴史、自然、アニメ、どれも素晴らしいよ。」と言ってきて、日本を好いてくれていることうれしく思いました。「無印良品」「MUJI」「風来坊」の「FURABO」と、日本にあるお店そのものもあり、私が思っているよりも、日本とアメリカは近い存在なのだなと思いました。

すべて条件が揃って私はこの体験ができました。皆様には、お礼を言い切れませんが、国境を越えて、もう一人の姉が出来て嬉しかったです。言葉だけが、自分の気持ちを伝える手段ではないし、言葉が全てではないですが、今の世の中では、外国語を話せることは大前提であり、フランスαそれを使って何が出来るかが求められています。これから、もっと多くのことに視野を広げ、経験を積み、今回学んだことを将来に繋げていきます。

サンタモニカの高校生たちが富士宮を訪問

4月3日(金)・4日(土)に、サンタモニカ高校の学生15名、引率の先生2名が、日本への修学旅行期間中のプログラムの一つとして、富士宮市を訪れました。

2日間の滞在と、時間は短いものでしたが、彼らは、富士宮市長表敬訪問をはじめ、富士宮東高校などの市内高校生との交流会参加、市民宅でのホームステイなど、富士宮市を満喫し、市民との交流を深めました。

■ 4月3日(金)

12時22分 富士宮駅着

↓
富士宮市内の高校生との交流会(きらら)

↓
富士山本宮浅間大社 拜殿でご祈祷

↓
外神東公園

↓
富士宮市長表敬訪問

↓
ホストファミリー顔合わせ
(ホームステイ開始)

■ 4月4日(土)

午前・午後

ホストファミリーとの交流

↓
17時9分 新富士駅発



富士宮を訪ねて

アル・トランドル 体育局長

私たちは、どんなことが待っているのかよく分からないうまま富士宮市へ向かいました。というのも、多くの生徒は、富士宮市のみならず、日本にきたことが初めてだったからです。到着すると、私たちは快く歓迎され、まるで家にいるような気持ちになりました。

まず、地元の高校生に会いました。これは、私の学生たちにとって、富士宮市の学生と交流する素敵な経験となりました。時々、コミュニケーションに苦戦しましたが、学生たちは常に理解しあおうと様々な方法を見つけていました。食事は、集まったみんなで、やさそばを一緒に食べ、共通の関心や経験を見つけ絆を深めていました。

その後、地元高校生達のガイドで、浅間大社を訪れ、正式参拝に出席することを許されました。学生達が居心地のいいように配慮して頂きましたが、彼らは伝統を学ぼうと努力していました。日本(富士宮)の人々の寛容さを素晴らしいと感じました。

姉妹都市の意味を確認でき

る、外神東公園に行きました。その公園は、故郷を思い出させる、サンタモニカピアサインのレプリカがあり、富士宮市が姉妹都市との関係を大切にしていることがとても分かりました。

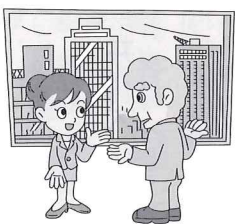
そして市役所に案内され、須藤市長をはじめ、関係者の皆様にお会いし、最後に、この市長表敬訪問を記念して、全員で写真を撮りました。



そしてこの日の最後に、私たちはホストファミリーと顔を合わせました。ホストファミリーが私自身と生徒達に与えてくれた寛容さと滞在中の心遣いは、ほかに比類のないほどのものでした。

帰国するために乗った東京への新幹線で、生徒たちはお互いのホストファミリーとの体験を話していました。私は、生徒の話聞き、もらった贈り物を見て、生徒たちがホストファミリーによくしていただいたことが分かり、とても感動しました。生徒達は、明らかに今回の経験によって心を動かされました。

富士宮市の美しさは、人々の寛容さによるものであり、訪問することができ光栄でした。そして、いつの日かサンタモニカで、富士宮市の人々をお迎えし、感謝を表現できる日が来ることを楽しみにしています。富士宮市訪問は、私たちの日本冒険旅行の、最も重要な場面として、忘れられない経験となりました。



平成 27 年度 (2015 年度) に行われた事業

●総会の開催

日 程：平成 27 年 5 月 13 日 (水) 会 場：富士宮駅前交流センターきらら 集会室

- 40 周年記念事業 8 月 12 日 (水) 市長表敬訪問、記念ベンチ除幕式、記念レセプション
 8 月 13 日 (木) 市内観光
 8 月 14 日 (金) サンタモニカ市少女サッカーチーム
 ～16 日 (日) 富士山カップ参加

●市民交流事業の実施

★サンタモニカ高校日本語学科修学旅行生受入

参加者：17 人

日 程：4 月 3 日 (金) ～ 4 日 (土) 1 泊 2 日

市長表敬訪問、高校生交流会、市内観光、ホームステイ

●交換学生事業の実施

富士宮市交換学生 (7/25 ～ 8/6 派遣)		サンタモニカ市交換学生 (8/6 ～ 8/17 滞在)	
藤原 泰樹	吉原 高 1 年	サミュエル・グロスマン	15 歳 サンタモニカ高 10 年
市川 真理	富岳館高 3 年	アマダ・ウェルサー	14 歳 サンタモニカ高 10 年
小川 果南	富士見高 1 年	オリビア・チュウ	15 歳 サンタモニカ高 10 年

●会報『友情』第 35 号の発行

平成 28 年度 (2016 年度) 総会のお知らせ

日 程：5 月 11 日 (水) 午後 2 時～ 会 場：富士宮駅前交流センターきらら

平成 28 年度 (2016 年度) の主な事業予定

- 交換学生事業 派 遣：7 月 23 日 (土) ～ 8 月 5 日 (金)
 受 入：8 月 5 日 (金) ～ 8 月 18 日 (木)

- 市民訪問団派遣 10 月 19 日 (水) ～ 10 月 23 日 (日) 3 泊 5 日

※平成 28 (2016) 年 4 月 1 日より、富士宮国際姉妹都市協会事務局の担当部署が
 富士宮市役所 市民交流課 市民交流係に変わります。

編集後記

浅井大志

本年度は、五月に開催された協会総会の役員改選にて、多数の常任理事が新任し、姉妹都市提携四十周年記念事業と交換学生事業を主に活動が始まりました。

私も新任の一人ですが、やはり姉妹都市提携四十周年記念事業に携わらせていただいた事が印象に残っています。八月には、記念レセプションが、ケビン・マケオン・サンタモニカ市長をはじめとする訪問団と、富士宮市関係者合わせ総勢百八十四名により盛大に催されました。私は懇親会の司会も仰せつかり、片言ながら、訪問団の方々との良いコミュニケーションを図ることができました。

また、毎年恒例の交換学生事業も行われ、希望に満ちた若い力が、今年もグローバルな一歩を歩み創めました。今後も富士宮市を国際化していく、未来ある青少年のワールドワイドな活躍を、本協会が支えていけたらと思います。

市民の皆様におかれましては、協会に対し、益々のご理解とご支援、ご協力をお願い申し上げます。